

景観基本軸の景観形成基本方針

11の景観基本軸

景観基本軸は、東京の景観構造の骨格となっている河川、崖線や幹線道路等を中心とした帯状の地域です。東京の景観づくりをすすめていく上で、特に重要と考えられるもので、積極的な景観形成をすすめていくことが必要です。

マスタープランでは、下町水網軸、隅田川軸、南北崖線軸、都心東西軸、臨海軸、玉川上水・神田川軸、多摩川・国分寺崖線軸、武蔵野軸、丘陵軸、山岳軸、鳥しよ軸の11の景観基本軸を設定しています。

南北崖線軸

城北から都心を通り城南に至る武蔵野台地東端の崖線に沿った緑の多い軸

南北崖線軸では、公園緑地や樹林地などをネットワーク化した緑の回廊づくりを中心に崖線の緑をつなぎ、地形や自然を重視した景観づくりをすすめます。

あわせて歴史的・文化的背景を生かした街並みづくり、眺望点の確保など、緑ゆたかな歴史と文化の薫る街を育成していきます。

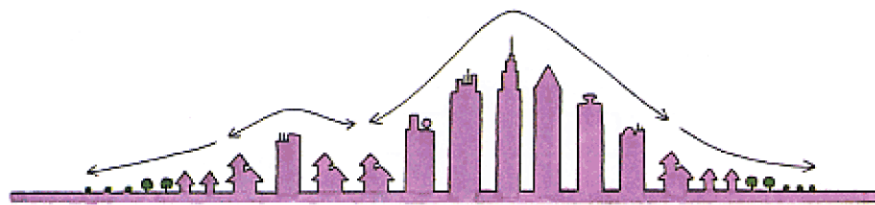


公園緑地や神社などに眺望点を確保する

都心東西軸

新宿・渋谷から皇居を通り隅田川に至る首都を象徴する施設や公園が集積する軸

都心東西軸においては、地形や水系、江戸や明治以降の遺産を大切にしながら、街並みやスカイラインに配慮して、世界都市にふさわしい風格のある都市景観を形成していきます。



調和のとれた建物のスカイラインを形成する

臨海軸

葛西から羽田までを弧状につなぎ、東京湾奥部の東京港の水際線となっている軸

臨海軸においては、海の広大な景観を生かした景観形成に留意し、海を意識した景観づくり、水際線の開放、東京港のシンボル景観づくりをすすめます。

また、海辺と緑地が調和した自然環境づくりも同時に行ないます。



新しい海辺のまちづくり

隅田川軸

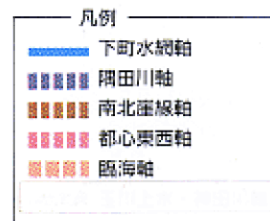
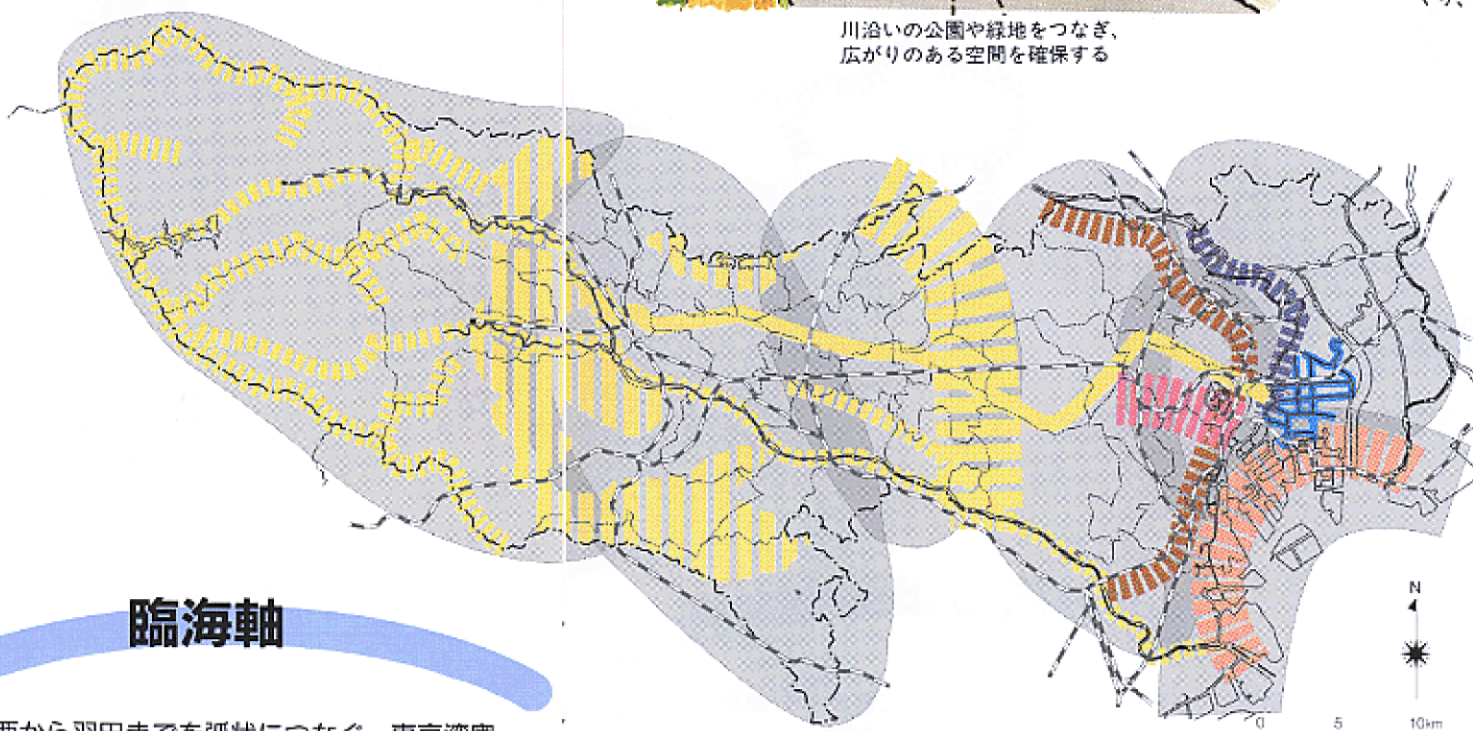
東京を代表する河川である隅田川を中心とした軸

隅田川軸では、隅田川を中心とした水と緑の帯を形成していきます。川沿いの周辺における環境や歴史的景観資源などを生かし、水辺を意識した街並みの形成をめざします。

また、風の道としての配慮や、川面の空間を活用した楽しい仕掛けや風物、イベントづくりも景観形成を彩る要素として重視します。



川沿いの公園や緑地をつなぎ、広がりある空間を確保する



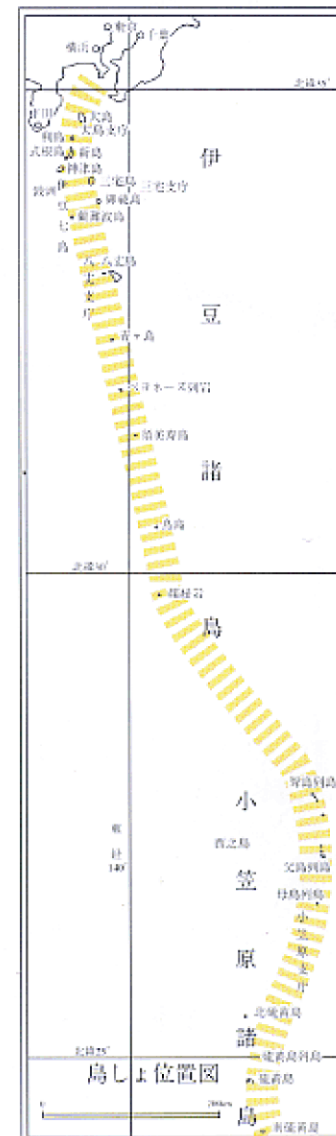
下町水網軸

川の手地域を網目状に走る掘削や運河、水路などから成り立つ軸

下町水網軸においては水と緑の回廊づくりを基本に、水辺に開かれた景観づくり、歴史的景観資源などを生かした街並みの形成、水上交通網の整備、水をテーマとした風物やイベントづくりなど、水辺に親しみ生活環境づくりをすすめます。



運河や水路の散策ルートをつくり、水辺の再生をすすめる



山岳軸

ほぼ全域が秩父多摩国立公園に含まれ、豊かな自然と稜線が美しい軸

山岳軸では、稜線の保全を重視するとともに、住民が森林に親しめるように、レクリエーション関連の施設を整備します。

また、林業振興に係わる施策を積極的にすすめ、良好な森林景観の保全につとめるとともに、伝統的な集落景観などの維持保全につとめます。

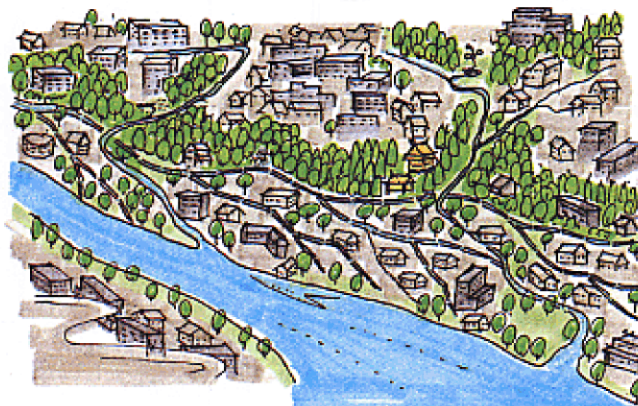


自然に親しむレクリエーション施設を整備する

多摩川・国分寺崖線軸

多摩川沿いの多摩川崖線、国分寺崖線及び立川崖線を中心に武蔵野台地の南端部を東西方向に結ぶ軸

多摩川・国分寺崖線軸では、東京の東西をつなぐ水と緑の帯を保全し、拡大していきます。地形的特徴を生かした景観づくり、歴史的・文化的景観資源を活用した個性ある景観づくり、地域の生活の場としての景観づくりを景観形成の目標とします。



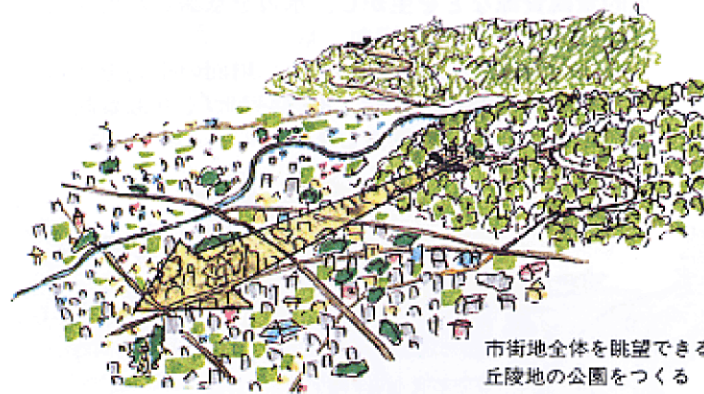
崖線を軸に水と緑の帯をつくる

丘陵軸

東京の西側の山地から台地に突き出した緑豊かな丘陵地の軸

丘陵軸においては、自然景観の保全と市街地開発との調和をはかり、これらを一体化したまとまりのある景観づくりをすすめます。

また、丘陵地のレクリエーションエリアづくりをめざし、広場、公園、散策路、サイクリングロードなどの整備をすすめ、自然の活用につとめます。



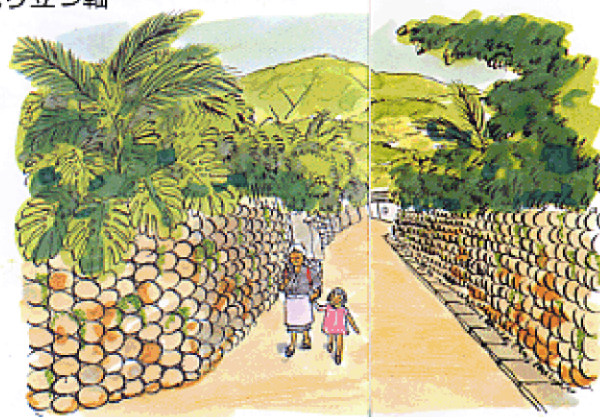
市街地全体を眺望できる丘陵地の公園をつくる

島しょ軸

多様な地質・地形の変化に富む伊豆諸島、小笠原諸島の島々から成り立つ軸

島しょ軸では、それぞれの島固有のすぐれた自然景観の保全につとめ、また、それを活用したレクリエーション関連の施設の充実をはかります。

島ごとに、特徴のある気候風土が生み出した貴重な景観資源、島の伝統的な生活や集落景観の維持保全につとめます。



固有の集落景観を保全する

玉川上水・神田川軸

多摩川から東西方向に武蔵野を抜け、隅田川に至る東京の背骨のような軸

玉川上水・神田川軸は、地域の生活と密接に結びつき、周辺に季節感とうるおいを与えています。上水や河川沿いの水と緑を帯状につなぎ、親水空間の拡張、歴史的景観資源の保全、周辺の街並み整備などをあわせた景観づくりをすすめます。

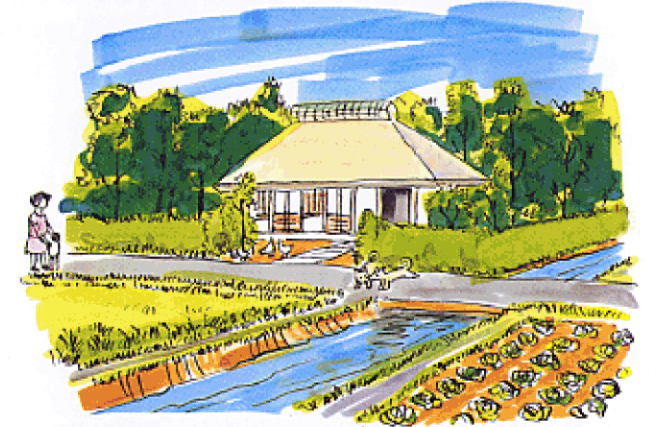


川沿いの建物を緑化する

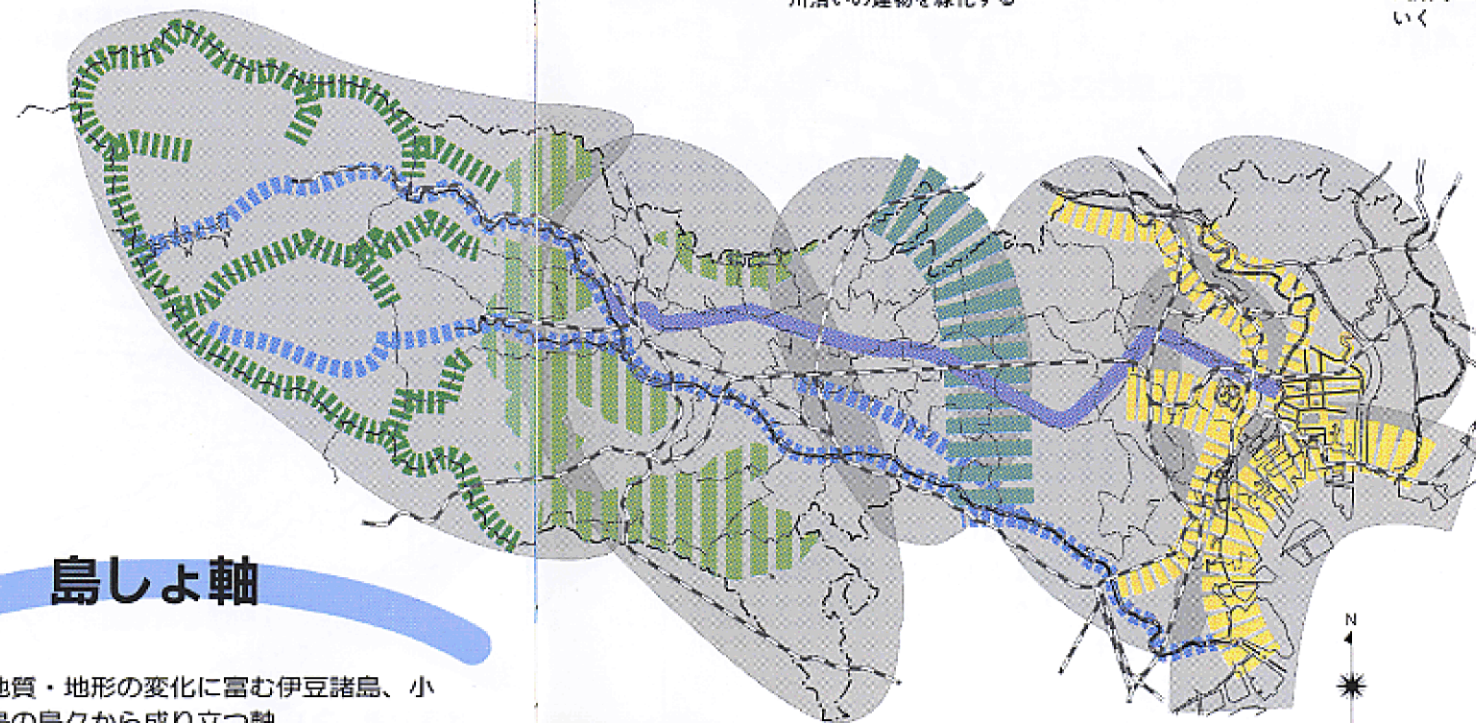
武蔵野軸

区部と多摩部の境界に沿って雑木林や農地、湧水池の多い地帯を通る南北の軸

武蔵野軸では、川や池などの水と雑木林などの緑を、景観の要素として活用しながら景観のまとまりをつくり、武蔵野の原風景の継承と再生をめざします。



雑木林、川、農地のある武蔵野の原風景を残していく



- 凡例
- 玉川上水・神田川軸
 - 多摩川・国分寺崖線軸
 - 武蔵野軸
 - 丘陵軸
 - 山岳軸
 - 島しょ軸

